

設問A

トリアージと「救命ボートの倫理」は希少資源の配分に優先順位を付ける点では同じだが、前者が医療資源をより必要とする患者を優先するのに対して、後者は生産性や社会的地位を優先する強者の論理である。後者を提唱したハーディンは、解決困難な問題では弱者の切り捨てもやむを得ないとしたが、この考え方は、未来世代を重視し、誰もが公平に機会と福祉にアクセスできることを目指すサステナビリティの精神とはかけ離れている。

設問B

トリアージは、限られた医療資源を最も必要とする患者に効率的に配分することを目的として、患者の状態評価と緊急性の判断に基づいて治療の優先順位を決める倫理的プロセスである。一方、アファーマティブ・アクションは、差別のない平等な社会の実現を目的として、特定人種の雇用目標や入学者選抜における特別枠の設定といった積極的措置によって、これまで社会的に不利な立場におかれてきたマイノリティを救済する施策である。

これからの日本社会を考えると、政治家の女性比率を向上させるための割り当てを用意するジェンダー・クォータ制の導入や、女性管理職の数値目標設定を企業に求める立法を検討すべきだ。なぜなら、日本のジェンダーギャップ指数が低い要因に女性の政治参画と経済参画の遅れがあるからである。議席や役職といった希少な資源の多くを男性が占めてきた歪みを是正し、平等で公平な社会を実現するためには、大胆な改革が必要だと考える。